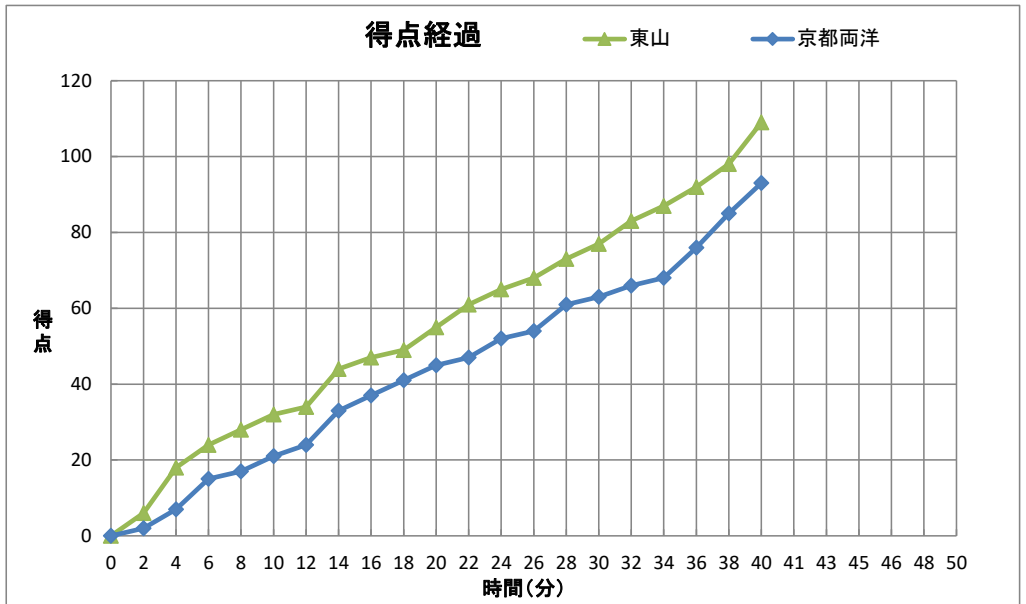




令和4年度全国高等学校総合体育大会京都府予選 兼  
第69回近畿高校バスケットボール大会京都府予選

個人トータル表

男子		5月28日		13:00 開始													
決勝リーグ		山城総合運動公園体育館		B													
◎	東山	109	<table border="1"> <tr><td>32</td><td>1st</td><td>21</td></tr> <tr><td>23</td><td>2nd</td><td>24</td></tr> <tr><td>22</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>32</td><td>4th</td><td>30</td></tr> </table>	32	1st	21	23	2nd	24	22	3rd	18	32	4th	30	93	京都両洋
32	1st	21															
23	2nd	24															
22	3rd	18															
32	4th	30															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	佐藤 友	48	2	17	8	4	* 4	谷 哲平	4	0	2	0	2				
* 5	瀬川 琉久	11	1	4	0	2	* 5	田村 留樹哉	9	3	0	0	5				
6	志水 将修	2	0	0	2	0	6	仲野 政真	0	0	0	0	0				
7	角野 寛伍	5	1	1	0	0	* 7	森川 綾哉	20	4	2	4	2				
8	曾我部 嵐史	-	-	-	-	-	* 8	齋藤 連人	9	0	3	3	2				
* 9	竹内 龍ノ介	14	0	6	2	3	9	山岡 青登	2	0	1	0	2				
10	瀧川 隼汰	0	0	0	0	0	10	高橋 慈央	0	0	0	0	0				
11	伊計 叶貴	4	0	2	0	0	* 11	森 弥月	24	0	8	8	2				
* 12	十川 虎之介	10	0	4	2	3	12	所 龍之介	12	2	2	2	1				
* 13	小泉 広翔	15	0	7	1	2	13	福井 鉄士	-	-	-	-	-				
14	飯田 流生	0	0	0	0	2	14	小川 凌来	11	2	2	1	4				
15	ナトクリオンケン ベナミネ	-	-	-	-	-	15	中野 京葵	-	-	-	-	-				
16	小野寺 星夢	0	0	0	0	0	16	伊藤 秀将	2	0	1	0	1				
17	淡路 輪	0	0	0	0	0	17	福田 義康	0	0	0	0	0				
18	松島 慎弥	0	0	0	0	0	18	越智 駿斗	0	0	0	0	1				
コーチ	大澤 徹也					0	コーチ	瀬戸山 京介					0				
Aコーチ	稲垣 叶大						Aコーチ	濱頭 連太郎									
合計		109	4	41	15	16	合計		93	11	21	18	22				
主審:		片山 雄一郎															
副審:		富田 洋平															
副審:		大溝 貴広															



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	:	:	34:26	:	:	:

〔戦評〕  
 京都決勝リーグ第2戦。東山は#5のジャンプシュートを皮切りに、#12もジャンプシュート、#4のポストプレーと精度の高いシュートで得点を重ねていき、開始2分半で10-2とスタートダッシュに成功する。両洋は4分間、フリースローのみの得点となるが、#7の3Pが決まると#11のドライブ、#12の3Pで徐々にスコアが伸び始める。しかし、東山の#13のlon1、#5のゲームメイクからの#4のインサイドを止めることができず、32-21の東山リードで第1Q終了。  
 第2Q、両洋は#5の3Pで幸先よくスタートすると#8がリバウンドシュートで8点差とし、ここから#11がドライブ、ゴール下と14点連続と気を吐く。東山は#11のジャンプシュート#7の3Pでつなぐが思うようにスコアが伸びない中、#9がリバウンドシュートで得点差を10点まで戻し55-45で前半終了。  
 後半、東山#4が2本連続の3Pと速攻を決めリードを広げにかかる。両洋は#8のジャンプシュート、#7の3Pですぐさま得点を返す。東山は#13のlon1、#4がリバウンドシュートをねじ込んでいき流れを渡さない。両洋は残り2分半で#4のレイアップの2得点のみとなり、東山は63-77とリードを広げる。  
 最終Q東山は#5のバスケットカウント、#4の速攻、#9のゴール下で得点を重ね#15の3Pが決まると最大リードの22点差となり、両洋はタイムアウト。両洋はそこから#8のリバウンドシュート、#14のドライブが決まり、追い上げの体制を作る。残り4分で6本の3Pを4選手で決め10点差まで詰め寄るが、東山は#4を再びコートに戻し、速攻などでリードを保ち109-93で勝利となった。